

＜過去 1 週間の動き＞

(9 月 2 日～9 月 8 日)

USD/ZAR: 14.2100～14.4950

ZAR/JPY: 7.60～7.75 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、反落の先行から、急反発、そのまま高止まりして、対ドル、対円共に約 2 カ月ぶりの高値を更新した。この間、南アからは、①南ア憲法裁判所が、独立選挙委員会(IEC)の地方選延期申請を却下(3 日)、②IEC が地方選立候補者登録の受付再開を発表(6 日)、③南ア第 2 四半期 GDP の明確な上振れ(7 日)④南ア準備銀行ガニヤホ総裁による物価誘導目標引き下げ示唆(8 日)など、興味深い出来事が相次いだ。ランドの値動きに影響した様子は、僅かにしか読み取れなかった。①は、敢えて読むならランド売り要因のはずだが、同日、ランドは急反発。②～④はいずれもランド押し上げ要因と読めたはずで、値動きから判断して、②、④がランド高に寄与した可能性は考えられなくはなかったものの、いずれにしても上げ幅は小幅にとどまり、③に至っては、小幅ながら、逆に、ランドは売られてしまった。結局、この間、明確な要因の裏づけがあった値動きは、3 日のランド急反発だけで、これも実態は米雇用統計(の非農業部門雇用者数)の低迷を受けたドル全面安の一環。3 日のランド反発が、(他の通貨との比較で)ひと際鮮明だったのは、前日(2 日)のランド下落が(やはり他の通貨との比較で)大幅だったからで、その意味で、この局面の乱高下は、ひと続きの値動き(強めの米雇用統計を警戒したドル買いと、発表の下振れに失望したドル売り)だったのかもしれない。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/7	6:00	総外貨準備高(USD)	8 月	58.41bn	56.72bn	54.46bn
	9:30	GDP(前年比)	Q2	+19.3%	+17.8%	-2.6%r

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(9 月 9 日～9 月 15 日)

USD/ZAR: 14.050～14.350

ZAR/JPY: 7.70～7.85

向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、もう一段のランド上昇を中心に予想。ただし、ランドの上昇余地は限定的で、対ドルの 14、対円の 7.8 などを明確に上抜けて取引水準を一段切り上げるような展開は見込み薄のように思われる。上述南ア要因の①と②は相殺し合って、今となっては、概ね中立要因。IEC が申請した、(当初 10 月 27 日に予定された)地方選の来年 2 月、或いは 4 月への延期が、憲法裁判所により却下されたことは、与党アフリカ民族会議(ANC)の大敗＝政局混乱を予見させるランド売り要因と読めたはず。同党の候補者登録手続きに問題が生じ、278 ある選挙区のうち 94 選挙区で、候補者の擁立に失敗したからだ。或いは、そこに、投票日の先延ばしを所与のものとした予断(油断)があったのかもしれない。ともあれ、11 月 1 日までの投票実施が確定したあと、IEC が立候補者登録の受付再開を決定したことは、逆に ANC にとっては起死回生のチャンスとなったはず。もっとも、7 月の暴動や、未だ抑制の効かないコロナ禍の影響もあって、早期の地方選実施は、少なからず与党に不利に働くものと見込まれている。③は文句なくランド押し上げ要因だったはずで、なにも「売らなくても良かったのに」とは思ったが、そうは言ってもたかが 1 四半期の数字に過ぎないし、予想を 1.5%ポイントも上振れたと言っても、分母の大きさを勘案すれば(注 1)、そこまで意外感の強い数字とも言えない。ランド堅調を中心に見るのは、なんと言っても④を重く見るから。物価誘導目標引き下げ(注 2)は、金融政策運営に引き締め方向のバイアスをかけるはずだし、中長期的な物価抑制も期待できる。ただし、7 月末に、同様の示唆をしたロシア中銀と、その後のルーブルの推移(注 3)を検証すると、通貨市場はそこまでこの話題に食いついては来ない可能性も考えられる。

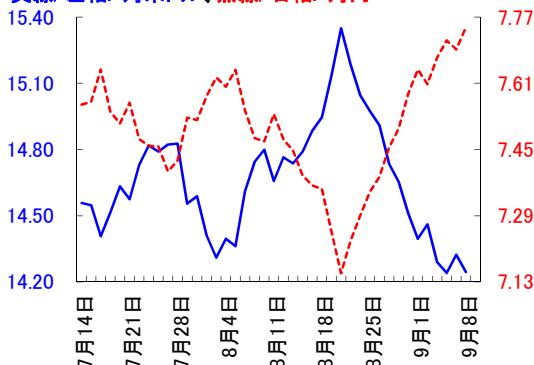
＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
9/9	9:00	経常収支(ZAR)	Q2		+334bn	+267bn
	11:00	製造業生産(前年比)	7 月		+3.0%	+12.5%
9/9-9/13		鉱業生産(前年比)	6 月		+21.1%	+21.9%
9/9-9/16		企業景況感指数	8 月			93.2
9/14	9:30	鉱業生産(前年比)	7 月			
9/15	11:00	小売売上高(前年比)	7 月			+10.4%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

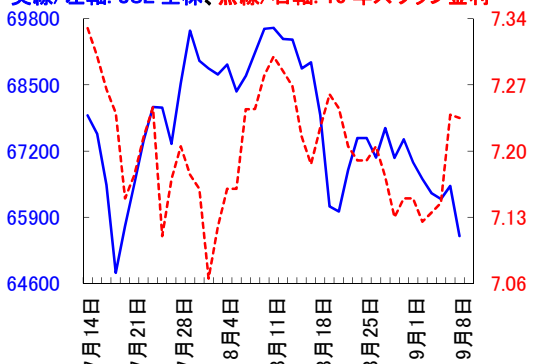
為替相場の推移(資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移(資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE 全株、点線/右軸: 10 年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		3.50%
長期金利(10 年スワップ)	9 月 8 日	7.235%
株価指数(JSE 全株)	9 月 8 日	65525.35
成長率(GDP/前年比)	Q2	+19.3%
経常収支(ZAR)	Q1	+267bn
失業率	Q2	34.4%
消費者物価(前年比)	7 月	+4.6%
小売売上高(前年比)	6 月	+10.4%
製造業生産(前年比)	6 月	+12.5%
鉱業生産(前年比)	5 月	+21.9%
貿易収支(ZAR)	7 月	+37.0bn
金価格(ロンドン 17:00)	9 月 8 日	1792.09

(注 1) +17.8%予想の 1.5%ポイント上振れは、8.4%の上振れで、乱暴な計算になるが、+3.5%予想を前提にすれば、0.3%ポイント程度の上振れに相当すると考えることもできる

(注 2) クガニヤホ総裁は、現行+3～6%の誘導目標を、例えば+2～4%、+3～5%に引き下げる可能性に言及した

(注 3) 若干の上下動を経て、現在までに概ね横ばい

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。